

身近になってきている

「クマ」のはなし

日野郡鳥獣被害対策協議会
実施隊チーフ 木下 卓也



あなたの近くにクマの痕跡!?

2020年、日本各地で話題になった動物、それは「クマ(ツキノワグマ)」。10月ごろに発生したショッピングセンターに入りこんでしまい、「たてこもり」と表現された事故については記憶に新しいのではないのでしょうか。他にも人の生活圏でクマと遭遇する事故が頻発しました。日野郡では一部の地域で以前から目撃があり、注意喚起されていましたが、多くの場所ではあまり見ることはない「私たちの生活とは関係のない動物」のように感じていないでしょうか?たしかにイノシシやタヌキと違って、痕跡も姿も見ることは少ないように思います。しかし近年、目撃される件数もイノシシの罠に誤ってかかる件数も増えています。じつはクマの痕跡を見過ごしているだけかもしれません。今回は意外と知らないクマの痕跡「クマ棚」についてお話しします。

冬になると見える、クマが木の実を食べたあと

「クマ棚」と聞いてピン!とくる人はどのくらいおられるでしょう?クマ棚を語るには、まずクマが何を食べているのかを知っておく必要があります。クマの食べ物と言えば「サク!」「ハチミツ!」と思う方がたくさんいるでしょう。もちろん魚もハチミツも食べます。弱ったシカや死骸など動物質の食べ物も喜んで食べます。しかしこれら動物質の食べ物にいつも出会えるわけではありません。最もよく食べているのは、ドングリ類やブナ、クリ、クルミ、ハシバミといった堅果類です。大きな体の個体でも器用に木に登り、樹上で枝先の実を食べるために、枝を引き寄せ折ってしまいます(図1)。



嘘のような話ですが、実を食べたあと、その枝を自分のお尻の下に敷くため、枝と残った葉が積み重なって鳥の巣のようになります。夏の終わり頃だと周りの葉がまだ茂っているので分かりにくいですが、冬になると周りの葉が落ち、鳥の巣状に積み重なった枝や葉がよくわかるようになります。この枝葉が積み重なったものを「クマ棚」と呼びます(図2)。



庭の木に「クマ棚」はありますか?

クマが多い地域では民家横のクリの木や高速道路わきのクヌギの木などでも目撃されます。日野郡ではあまり目撃したと聞きませんが、「そういえば、うちのクリの木に鳥の巣のようなものがあつたなあ」と思い当たることはないのでしょうか?

もう耕作していない昔の農地ぎわ、山ぎわの農地や民家横などにたくさん植えてあるカキやクリは、クマの大好物です。

今後に備えて徐々にでも、集落にクマを呼び寄せないよう対策を講じていく必要があるかもしれません。

日野郡鳥獣被害対策協議会
電話:0859-72-1399



表紙写真

タイトル:桜満開の明地峠公園

撮影者:日野町 松本 利秋

撮影者コメント:ここは標高620m、日野町地内・国道180号に隣接する明地峠展望公園。桜が植栽されており、一月遅れで霊峰大山を仰ぎ、花見を楽しむことができます。コロナ禍の中、自然に親しみ、きれいな空気を吸って気分転換してみても如何でしょう。ここは、秋期に発生する雲海で有名です。私は、うんかい……転じて運が開ける「開運スポット」と呼んでいます。